



核兵器の 現状

現在、9か国が数千発におよぶ核兵器を保有しており、世界中の人々にとってかつてない深刻な脅威となっています。そのうち数百発は高い警戒態勢のもとに置かれ、数分以内に使用できる状態にあるとされています。

これらの核兵器は、ミサイル発射施設や航空機、そして常に海を航行する潜水艦に配備されています。なかには数千キロもの距離を移動し、大陸を越えて目標に到達するものもあります。

その多くは、核時代のはじまりに広島と長崎に投下された原子爆弾をはるかに上回る爆発力を持っています。最大級のものは、通常の化学爆薬であるTNT火薬100万トン(1メガトン)以上に相当する威力を有しています。

また、戦場での使用を想定した、いわゆる「戦術核兵器」であっても、広島に投下された原子爆弾の20倍に相当する爆発力を持つ場合があります。

さらに、1隻の原子力潜水艦には、十数発以上の弾道ミサイルが搭載され、それぞれに複数の核弾頭が装備されていることがあります。その総合的な破壊力は、100以上の都市を壊滅させる規模に及ぶとされています。

核保有国

現在、核兵器を保有している国は9か国あります。アメリカ合衆国、ロシア、中国、フランス、イギリス、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮です。このうち、ロシアとアメリカ合衆国の保有核兵器は、他の国々と比べて突出して大きいとされています。

核兵器が配備されている軍事基地の近くで暮らす人々は、核兵器による攻撃の被害を受けるおそれや、偶発的な爆発による影響を受ける危険性が特に高い状態です。政府による情報の非公開のために、自らがそのような場所の近くにいることに気づいていない場合もあります。

多くの核兵器は、単に保管されているわけではありません。実際に配備され、いつでも使用できる状態に置かれています。そして各国政府は、「近代化」という名のもとに、核兵器の強化や拡大に多額の資金を投じています。

また、いくつかの核保有国では、新しい種類の核兵器の開発や、その運搬手段の試験、さらには核兵器の使用に関する方針の拡大が進められています。こうした動きからは、各国が将来にわたって核兵器を保持し続ける意図を持っていることがうかがえます。

核拡散への懸念

核保有国が核軍縮を進めてこなかったことにより、今後さらに多くの国々、あるいは非国家までもが核兵器を取得するおそれが高まっています。こうした拡散を防ぐためには、核軍縮における着実な進展が不可欠です。

現在、核不拡散を目的としたさまざまな重要な取り組みが行われていますが、その効果が十分に保証されているわけではありません。ウランの濃縮や使用済み核燃料の再処理によってプルトニウムを生産できる国であれば、理論上、数か月のうちに核兵器を開発できる可能性があります。

南アフリカ、イスラエル、インド、パキスタン、北朝鮮はいずれも、「平和目的」とされる施設や資源を利用して核兵器を取得しており、このことは、原子力計画に内在する拡散のリスクを示しています。

わずか数キログラムの高濃縮ウランや分離プルトニウムで1発の核爆弾を十分に製造できるといわれています。現在、これらの物質は世界中で数百トン規模にのぼる備蓄が存在し、いまなお増え続けています。核軍縮を実現するためには、この課題と向き合うことが求められています。

核兵器に関与する国々

核兵器を保有している国は9か国に限られますが、その保有や使用の可能性を支持している国は、30か国以上にのぼります。なかには、同盟国によるいわゆる「核の傘」のもとでの防護を受けている国々も含まれます。

たとえば、北大西洋条約機構(NATO)のすべての加盟国は、これまでに核兵器を支持する立場を公に示してきました。また、ベルギー、ドイツ、イタリア、オランダ、トルコなどの国々では、アメリカ合衆国の核爆弾が自国領内に配備されており、それらを投下するための航空機や人員の提供も行われています。ベラルーシも、ロシアとの間で同様の配備体制をとっています。

さらに、一部の国々は、核兵器の標的設定のために情報共有を行ったり、核兵器を搭載した艦船の領海通過や港湾への寄港、あるいは核兵器を搭載した航空機の領空通過や空港での給油を認めたりしています。

こうしたさまざまな関与は、核のリスクを長期にわたって存続させ、核軍縮に向けた取り組みを難しくしていると言えます。



ドイツで、アメリカの核爆弾が配備されている軍事基地を封鎖する抗議者。出典：ラルフ・シュレセナー

2023年の軍事パレードにおけるロシアの核ミサイル。出典：ロシア政府

博物館に展示されているアメリカの核ミサイル。出典：アメリカ政府

